

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
柔道整復学2							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・昼間部	2年	1期	奥原 敬		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	臨床柔道整復学			座学	1	10	
科目概要							
学習範囲は、生命維持に関わる血管や臓器の近傍である頸椎や肋骨の損傷であるため、それらとの関連性や外傷における内臓器損傷、頸椎や肋骨の解剖生理学や運動生理学も含め学習の範囲とする。また柔道整復師の業務範囲を踏まえながら、現場で対応できる基礎的なものと同時に重篤な場合の対処法、対診についても習得させる。							
目標							
一般目標(GIO) <small>本講義を学習することで達成されるべき目標</small>	柔道整復師として患者を正しく管理できるようになるために、頭部～肋骨までの解剖と機能の基礎知識を習得するとともに、それらに必要な臨床的技能と態度を身につける。						
	到達目標(SBO) <small>一般目標を達成するために必要な具体的な内容・客観的な指標(合格基準)</small>						
一般に重篤な疾患も含まれる範囲のため座学ではあるが、臨床的および緊急性を含めた形での対応を習得させる。 1. 頭部から頸椎・肋骨の解剖・生理を理解し、名称を記述できる 2. 上部脊椎および肋骨の構造において複数の選択肢から適切なものを選ぶことができる 3. 頭部から頸椎・肋骨の外傷・軟部組織損傷の原因を列挙できる 4. 上部脊椎および肋骨の機序において複数の選択肢から適切なものを選ぶことができる 5. 頭部から頸椎・肋骨の外傷・軟部組織損傷の症状および対応が説明できる 6. 脊柱外傷の臨床的な状況において複数の選択肢から適切なものを選ぶことができる 履修に必要な予備知識や技能							
脊柱における解剖生理、特に上部脊椎の骨構造や肋骨の骨構造、軟部組織の基礎知識や呼吸の生理などを予習しておくことが望ましい。							
教科書・参考書							
柔道整復学・理論編第6版 柔道整復学・実技編第2版 解剖学・生理学すべて教科書							
受講上の注意							
挨拶の励行 私語・スマートフォンの使用・撮影・録画は一切の禁止とする							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	90					10	100
定期テストを主とし、授業態度や出席状況などを勘案し総合的に判断する							
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	頸椎の解剖と機能			『柔道整復学理論編第6版』p171～172	教科書 ノート 筆記用具等		
第2回	頸椎の骨折(上位頸椎骨折)			『柔道整復学理論編第6版』p172～176	教科書 ノート 筆記用具等		
第3回	頸椎の骨折(中・下位頸椎骨折)			『柔道整復学理論編第6版』p177～180	教科書 ノート 筆記用具等		
第4回	頸椎脱臼 頸部の軟部組織損傷			『柔道整復学理論編第6版』p180～185	教科書 ノート 筆記用具等		
第5回	注意すべき疾患①～⑤			『柔道整復学理論編第6版』p185～186	教科書 ノート 筆記用具等		
第6回	注意すべき疾患⑥～⑩			『柔道整復学理論編第6版』p187～190	教科書 ノート 筆記用具等		
第7回	胸・背部の解剖と機能			『柔道整復学理論編第6版』p191～193	教科書 ノート 筆記用具等		
第8回	胸部の骨折(肋骨骨折・肋軟骨骨折)			『柔道整復学理論編第6版』p193～197	教科書 ノート 筆記用具等		
第9回	胸部の骨折(胸骨骨折)			『柔道整復学理論編第6版』p198～199	教科書 ノート 筆記用具等		
第10回	定期試験				筆記用具等		
実務経験と本講義との関連について							
柔道整復師として整骨院勤務、専科教員、自院の運営と計16年従事。頭部、胸背部などの外傷について多数担当した経験から脊椎外傷について講義します。							
メールアドレス							
okuhara-t@nihonisen.ac.jp							